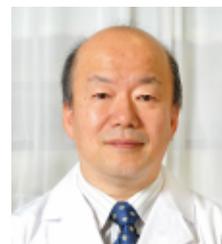


## 副院長 新任のご挨拶



副院長 辻 吉郎

## 患者さんの個性や背景にも配慮し コミュニケーションを大切にした医療を提供

### ■専門チームの一員としてリハビリを提供

1月から副院長として就任した辻吉郎です。京都生まれの京都市育ちで、30年以上、整形外科の専門医として、急性期から慢性期の患者さんの治療に従事してきました。このたび、骨粗鬆症を基礎疾患として骨折に至った患者さんの日常生活の不自由さを少しでも改善するお手伝いが出来ればと考え、リハビリテーション科に転科しました。

当院では、主に脳梗塞や脳出血、大腿骨頸部骨折などの急性期治療を終えられた患者さんを対象とした「回復期リハビリテーション」を担当します。リハビリテーション専門医や理学療法士、作業療法士、言語聴覚士など、専門家チームの一員となり、患者さんの心身のご回復を支援させていただきます。

### ■分かりやすい言葉を心がけます

私が患者さんに接する際に大切にしていることは、「できるだけ、分かりやすい言葉で理解してもらおう」ことです。専門用語を避け、できるだけ分かりやすい言葉で説明するように気をつけています。

#### 辻吉郎副院長 プロフィール

1983年 京都府立医科大学附属病院  
1989年 社会保険神戸中央病院  
1990年 水田整形外科病院  
1994年 京都第二赤十字病院  
1996年 国立八日市病院  
2000年 精華町国民健康保険病院  
2003年 西陣病院  
2007年 京都府立心身障害者福祉センター  
2010年 亀岡市立病院  
2017年 十条武田リハビリテーション病院 副院長就任

例えばスポーツ新聞などでは、「半月板の損傷」という言葉をよく目にしますが、実際に半月板がどうなっているかはなかなか分かりませんよね。

半月板の説明をするなら、膝関節のモデルを持ち出して説明しながら、「真ん中が薄くて外側が分厚くなっています。ちょうど競技場の観客席みたいなんです」など、できるだけイメージが伝わりやすくなるように工夫しています。



ただ、そうは言ってもいきなり重要なことを伝えると患者さんがショックを受け、言葉がなかなか耳に入らなくなってしまうこともあります。ですから、優先度の高いことからお伝えするようにしています。どの程度、理解されているのか、その方のおかれている社会的な背景も考え、コミュニケーションを行っています。

患者さんのご理解を得て一緒になって治療方針を立て、「あの先生に診てもらって良かった」と言ってもらえるよう努力を続けてまいります。どうぞ宜しくお願いします。

医療法人財団 医道会

## 十条武田リハビリテーション病院

〒601-8325 京都市南区吉祥院八反田町 32 番地  
TEL : 075-671-2351 (代) FAX : 075-671-2961  
URL : <http://www.takedahp.or.jp>

**診療科目** 内科・循環器内科・神経内科・呼吸器内科・消化器内科  
外科・整形外科・脳神経外科・泌尿器科・リハビリテーション科  
心療内科・皮膚科・麻酔科・糖尿病内科・リウマチ科  
肛門外科・放射線科

**受付時間** 午前診 8:30～12:00 / 午後診 12:00～16:00 / 夜診 16:30～20:00

**診療時間** 午前診 9:00～12:00 / 午後診 13:00～16:00 / 夜診 17:30～20:00

## 地域連携室より

平素は、当院の診療に多大なご理解とご協力を賜り厚くお礼を申し上げます。

私ども地域連携室は、地域の医療機関、保健機関、福祉機関とのより良い連携のもとに診療を進めていきたいと考えております。

今後もスムーズな医療連携が図れるよう努力する所存ですので、ご指導をよろしくお願い申し上げます。

**連絡先** TEL 075-671-2523 (直通)  
FAX 075-671-2654 (直通)  
E-mail [renkei-j@takedahp.or.jp](mailto:renkei-j@takedahp.or.jp)